

平成23年度自殺対策関連研修会 実施要領

1 目的

精神保健福祉に携わる関係機関職員を対象に、自殺予防に関する知識の習得や対応技術の向上を図ることを目的とする。

2 主催

心と体の健康センター

3 内容

うつ病やパーソナリティ障害、薬物依存などを抱える方が自殺リスクの高い一群であることから、疾患別に学べる内容とする。詳細は、別紙 ~ のとおり。

4 申込み手続きについて

申込書は、1研修（部分受講が可能な場合は各々）につき1部提出することとし、郵送かファックスで申込む。同封の申込書が不足する場合は、コピーして対応すること。締め切りは、研修毎に異なるため、留意すること。

5 受講決定について

定員数を超えない場合、申込書の受理をもって決定とする。

受講生各自への決定通知はしません

定員数を超えた場合、公平性を勘案し、推薦順位に従って受講決定をする。

受講できない場合は、申込み締め切り後、所属機関宛にFAX等で連絡します。

6 注意事項

研修によって、対象者・開始時間・会場が異なるので、注意すること。

研修会場の駐車場は、台数に限りがあり、利用できない場合があるため、なるべく、公共交通機関または最寄りの有料駐車場を利用すること。

都合により欠席する場合は、必ず、研修担当まで連絡すること。

研修担当 心と体の健康センター 相談指導係 電話 089-911-3880 FAX 089-923-8797
--

うつ認知行動療法研修（自殺対策関連研修）

目的	うつ病の認知行動療法の基礎的知識と基本技能の獲得	
対象	精神保健福祉に携わる関係機関職員 （保健所・市町行政機関職員、医療機関等） 但し、8月6日は認知行動療法を実施している機関に限ります	
定員	8月5日（金）100名	8月6日（土）30名
	9月16日（金）50名	2月未定 100名
会場	メルパルク松山（松山市道後姫塚 123-2） H24年2月の会場は未定	

プログラム

時 間	内 容	
8/5 (金)	10:30～18:30	「認知行動療法の理論と実際」～基礎編～ 慶應義塾大学医学部 ストレスマネジメント室 教授 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 認知行動療法センター センター長 大野 裕
8/6 (土)	10:00～12:00	「認知行動療法の具体的なすすめ方」(座談会形式) 慶應義塾大学医学部 ストレスマネジメント室 教授 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 認知行動療法センター センター長 大野 裕
9/16 (金)	10:00～11:00	「うつ病デイケアの取り組みについて」 広島県精神保健福祉センター 専門員 田川 弘子
	11:00～12:00	「のぞいてみよう！集団認知行動療法」 広島県精神保健福祉センター 次長 佐伯 真由美
	13:00～14:30	ロールプレイ・まとめ 広島県精神保健福祉センター 次長 佐伯 真由美 専門員 田川 弘子
	14:30～16:30	「医療現場における集団認知行動療法の実際」 正光会宇和島病院 医師 渡辺 亜矢子 正光会宇和島病院 精神保健福祉士 福田 詩子
H24 2月 未定	未定	「認知行動療法の理論と実際」～応用編～ 慶應義塾大学医学部 ストレスマネジメント室 教授 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 認知行動療法センター センター長 大野 裕

H24年2月については、日程が決まり次第、別途お知らせいたします。

申込み締め切り

平成23年7月25日（月）

申込み〆切日：平成23年7月25日(月)

F A X 送信票

心と体の健康センター 行

FAX 番号 089 - 923 - 8797

うつ認知行動療法研修（自殺対策関連研修） 受講申込書【8/5(金)・9/16(金)分】

優先 順位	受講者氏名	8/5(金) 認知行動療法（大野裕先生）	9/16(金) 集団認知行動療法
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

参加する欄に を記入してください

上記の者、うつ認知行動療法研修（自殺対策関連研修）に受講申込みいたします。

所属・担当者名： _____

申込み〆切日：平成23年7月25日(月)

F A X 送信票

心と体の健康センター 行

FAX 番号 089-923-8797

うつ認知行動療法研修（自殺対策関連研修） 受講申込書【8/6（土）分】

優先 順位	受講者氏名	貴施設における認知行動療法の実施内容、大野先生に質問したいこと等について、記載してください。
1		
2		

上記の者、うつ認知行動療法研修（自殺対策関連研修）に受講申込みいたします。

所属・担当者名：_____

パーソナリティ障害の理解と対応研修（自殺対策関連研修）

目的	パーソナリティ障害の基礎的知識の獲得 弁証法的行動療法(DBT)の概要について理解するとともに、ワークショップ(演習)を通して、具体的にDBTで用いられるマインドフルネススキル、対人関係スキル、感情調節スキル、苦痛耐性スキルについて学ぶ
対象	精神保健福祉に携わる関係機関職員 (保健所・市町行政機関職員、医療機関等)
定員	8月25日(木) 100名 9月21日(水) 50名 9月22日(木) 50名
会場	8月25日(木) 国際ホテル(松山市一番町1-13) 9月21日(水)および9月22日(木) メルパルク松山(松山市道後姫塚123-2)

時 間		内 容
8/25 (木)	13:00～16:00	「パーソナリティ障害の理解と対応」 大阪市立大学大学院医学研究科 神経精神医学 永田 利彦
9/21 (水)	10:30～17:00	「弁証法的行動療法の実際」 慶神会武田病院 DBT臨床研究プロジェクトチーム/顧問 ヒューマンウェルネスインスティテュート/CEO 石井 朝子
9/22 (木)	10:00～16:00	ワークショップ 「弁証法的行動療法の実際」 慶神会武田病院 DBT臨床研究プロジェクトチーム/顧問 ヒューマンウェルネスインスティテュート/CEO 石井 朝子

弁証法的行動療法(Dialectical Behavior therapy: DBT)は、米国の行動心理学者である、マーシャリネハン(Marsha M. Linehan)博士によって、1987年に開発された、境界性パーソナリティ障害(borderline personality disorder: BPD)の診断に最も関連する自殺行動としてのリストカットや過量服薬などの意図的な自己破壊的な問題行動に対して多くの有効性が実証されている認知行動療法です。石井朝子先生は、2004～2005年に米国ワシントン大学においてリネハン博士及びDBT専門家による講義・トレーニングを受講され、現在は、平成20年に設立された公益法人(ヒューマンウェルネスインスティテュート)において、慶應義塾大学の太田裕教授らとご一緒に、DBTの中核スキルであるマインドフルネスを広く一般社会に向けた活動を実施されています。

申込み期間

平成23年7月26日(火)～8月15日(月)

申込み期間：平成23年7月26日(火)～8月15日(月)

F A X 送信票

心と体の健康センター 行

FAX 番号 089-923-8797

パーソナリティ障害の理解と対応研修 (自殺対策関連研修) 受講申込書

【8/25(木)・9/21(水)・9/22(木)分】

優先 順位	受 講 者 氏 名	8/25(木) 認知行動療法 (永田先生)	9/21(水) 弁証法的行動療法 (石井先生)	9/22(木) 弁証法的行動療法 (石井先生)
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

参加する欄に を記入してください。

上記の者、パーソナリティ障害研修(自殺対策関連研修)に受講申込みいたします。

所属・担当者名： _____

アルコール研修（自殺対策関連研修）

目的	自殺対策という切り口からアルコール依存症を見直す アルコール依存症の基礎的知識の獲得と効果的な支援技術について学ぶ
対象	精神保健福祉に携わる関係機関職員 (保健所・市町行政機関職員、医療機関等)
定員	100名
会場	国際ホテル松山(松山市一番町1-13)

時 間		内 容
10/29 (土)	13:30～16:30	「アルコール依存症の理解と援助」 肥前精神医療センター 院長 杠 岳文

肥前精神医療センターは、アルコール・薬物依存、小児思春期の情緒障害と発達障害、精神科リハビリテーション、認知症、司法精神医学など、現代の精神科医療に求められるほとんどの機能と専門領域毎の専門医や専門外来、専門病棟を有する多機能型精神科医療機関です。

毎年、医療関係者等を対象に、アルコール・薬物研修も実施されています。

認知行動療法、変化のステージモデルを用いたアルコール依存症治療プログラムを開発されるなど、より実践的で実用的な取り組みをされています。

申込み期間

平成23年9月26日(月)～10月14日(金)

申込み期間：平成23年9月26日(月)～10月14日(金)

F A X 送信票

心と体の健康センター 行

FAX 番号 089-923-8797

アルコール研修（自殺対策関連研修） 受講申込書【10/29(土)分】

優先順位	受講者氏名
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

上記の者、アルコール研修（自殺対策関連研修）に受講申込みいたします。

所属・担当者名：_____

発達障害研修（自殺対策関連研修）

目的	青年期・成人期に出会う発達障害は、気分障害などの二次障害を合併することが多く、二次障害やひきこもり状態として対応することが多々ある。 今回の研修は、大人の発達障害の特徴や病態など最近の知見を得るとともに、支援するコツについて学ぶ
対象	精神保健福祉に携わる関係機関職員 （保健所・市町行政機関職員、医療機関等）
定員	100名
会場	国際ホテル松山（松山市一番町1-13）

時 間		内 容
11/26 (土)	13:00～16:00	「大人の発達障害への理解」 京都大学大学院研究科 教授 十一 元三

十一元三（といちもとみ）先生は、児童・精神医学のご専門家です。

広汎性発達障害の研究の第一人者として、日々臨床に携われ、教育・司法・療育論等に関する多くの委員に就任され、また、幅広く研究や数多くの研修会講師として、ご活躍されています。主な著書に「高機能自閉症・アスペルガー症候群」「自閉性障害の診断と治療」などがあります。

申込み期間

平成23年10月17日（月）～11月4日（金）

申込み期間：平成23年10月17日(月)～11月4日(金)

F A X 送信票

心と体の健康センター 行

FAX 番号 089-923-8797

発達障害研修（自殺対策関連研修）

受講申込書【11/26(土)分】

優先順位	受講者氏名
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

上記の者、発達障害研修（自殺対策関連研修）に受講申込みいたします。

所属・担当者名：_____

薬物依存症研修（自殺対策関連研修）

目的	自殺対策という切り口から薬物依存症を見直す 薬物依存症の基礎的知識の獲得と効果的な支援技術について学ぶ
対象	精神保健福祉に携わる関係機関職員 (保健所・市町行政機関職員、医療機関等) 但し、15時からの座談会は、薬物依存症治療プログラム(SMARPP)を今後実施することを考えている機関に限ります。
定員	10:30～15:00 100名 15:00～17:00 30名
会場	メルパルク松山(松山市道後姫塚123-2)

時 間		内 容
12/2 (金)	10:30～15:00	「薬物依存症の理解と援助 ～自殺対策という切り口から～」 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 診断治療開発研究室長 自殺予防総合対策センター 副センター長 松本 俊彦
	15:00～17:00	「薬物依存症に対する 認知行動療法プログラム(SMARPP)の有効性とその導入について」 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 診断治療開発研究室長 自殺予防総合対策センター 副センター長 松本 俊彦

申込み期間

平成23年11月7日(月)～11月21日(月)

申込み期間：平成23年11月7日(月)～11月21日(月)

F A X 送信票

心と体の健康センター 行

FAX 番号 089-923-8797

薬物依存症研修（自殺対策関連研修） 受講申込書【12/2(金)分】

優先 順位	受 講 者 氏 名	12/2(金) 10:30～15:00 講演「薬物依存症の理解と 援助」(松本先生)	12/2(金) 15:00～17:00 座談会「SMARPP)の有効性 とその導入」(松本先生) <u>今後 SMARPP を導入予 定の機関のみ</u>
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

参加する欄に を記入してください

上記の者、薬物依存症研修（自殺対策関連研修）に受講申込みいたします。

所属・担当者名： _____